

アフリカの奇跡“ルワンダ”

～あなたの大切なものは何ですか～

氏名：辰巳 展崇

所属名：広陵町教育委員会事務局

担当：指導主事

実践教科：総合的な学習の時間

時間数：各2～4時間 対象学年：小4・小5・小6・中1・教職員

人数：生駒市立あすか野小学校	5年生	231名	広陵町立広陵東小学校	6年生	50名
広陵町立広陵中学校	1年生	188名	広陵町立広陵北小学校	6年生	38名
広陵町立広陵東小学校	4・5年生	84名	広陵町立広陵東小学校	教職員	24名
広陵町教育委員会事務局		16名			

【実施概要】

【1】単元のテーマ・目標（評価の観点を意識して設定）：

違いを認め合い、一人ひとりが自分らしく生きるために、地球規模の課題に対して以下3点を設定する。

① アフリカ“ルワンダの”現状を“知る”

・アフリカ“ルワンダ”における課題について考えることで、よりよい自己の生き方について考える。

② 課題に“気づき、考える”

・世界の国々の人々や文化に関心をもつとともに、価値観のちがいを理解し、自国や外国の文化を尊重する態度を育てる。

③ 自分にできることを“実行する”

・世界中の人々が平和に安心して暮らせるようにするために、自分たちができることを考え実行する。

【2】 単元の評価 規準	(ア) 関心・意欲・態度	アフリカ“ルワンダ”という国に関心をもち、持続可能で公正な社会の実現へ向けて、自分ができることを意欲的に考え、「自分事」として捉える態度を養う。
	(イ) 思考・判断・表現	アフリカ“ルワンダ”の抱える諸問題と日本のつながりについて自分事として捉え、SDGsをもとに持続可能で公正な社会の実現へ向けて自分ができることについて考えたりして、適切に表現している。
	(ウ) 技能	写真やグラフから必要な情報を読み取り、考えたことを分かりやすく表現する。
	(エ) 知識・理解	アフリカ“ルワンダ”の抱える諸問題と日本のつながりや、持続可能で公正な社会の実現へ向けて活動する組織・人々の願いや苦勞について理解している。
【3】 単元設定	<p>授業対象が小4から中1まで年齢が多岐にわたっているため、児童生徒の実態に応じて、内容を変えながら実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手の文化の違いや背景から異なる意見を大切にし、相手の考えを理解する。 自分なりの見方や考え方を持ち、表現を工夫したりして、積極的に発信する。 状況と目的に応じて、相手の立場を考えながら、対話や話し合いなどを通して、主体的にコミュニケーションを図る。 	

【4】展開計画（全4時間）			
時	テーマ・ねらい	活動・内容	使用教材
1	<p>【アフリカ“ルワンダ”ってどんなところ？】 * 自分の考えに隠されている先入観や固定観念に気づく</p> <p>① 地理的概要について</p> <p>② 歴史について * 歴史的概要について説明</p> <p>③ 産業について</p> <p>④ 日本との関係 * 日本とルワンダの共通点や違いに気づく</p>	<p><u>SDGs ゴール1 [貧困をなくそう]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 世界地図を見ながら、日本とルワンダの地理的な違いなどを知る ルワンダってどんなところ？ アフリカのイメージやルワンダグッズから思いついたことを話し合う。 ルワンダグッズでモノランゲージを行う 地理的概要について説明する アフリカは「暑い」「乾燥している」というイメージが強いが、大陸の大部分は標高が高く、意外と涼しいことを理解する。 アフリカ大陸の自然環境をと関連付けて考える 児童生徒の実態に応じてジェノサイドに関わる出来事を伝える ルワンダにおける農業について伝える ICT 立国について伝える 頭上運搬について考える(フォトランゲージ) ジェリカン 水を運ぶ体験 (20Lのポリタンクを運ぶ体験をする) 三択問題 クイズ 	<ul style="list-style-type: none"> 世界地図 アフリカの地図 ルワンダの地図 ワークシート PowerPoint 資料 写真 民芸品（太鼓など） ルワンダコーヒー 20Lのポリタンク ルワンダ国旗 アフリカの服 ルワンダのスーパーの紙袋 
2	<p>【ルワンダの子どもたちについて知ろう】</p> <p>①日本の学校との違いや共通点に気づく ・学校生活について知る</p> <p>②働く子どもたちについて ・普段の生活について知る</p>	<p><u>SDGs ゴール4 [質の高い教育をみんなに]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 視察してきた各学校の学校生活を紹介 二部制であること 卒業認定試験があること ルワンダの学校生活について (授業・給食・遊びなど) 小学校就学率は9割以上あるが、卒業できるのは7割程度。卒業には、卒業検定試験があるので、それに合格できなければ卒業できない。また生活の貧しさからストリートチルドレンになるものもいることを知る 	 <ul style="list-style-type: none"> PowerPoint 資料 写真 バナナの葉でできたボール
3	<p>【ジェンダーギャップについて考えよう】</p> <p>①日本とルワンダの固定的な性別による役割分担（男女格差）について学ぶ</p> <p>・ルワンダにおける女性の国会議員の割合61%</p> <p>【男女格差ランキング】 ルワンダ 6位 日本 110位 (調査149カ国中) * この結果をどう考えるか</p>	<p><u>SDGs ゴール5 [ジェンダーの平等]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 世界には、「女性だから」という理由で教育や就職の機会が限られることがまだまだあるのが現状である。社会の中でつくられた役割としての「男女」もある。すべての女性や女の子も、男性と同じように機会を与えられ、能力を発揮できる社会の実現が大切である。私たちは、一人一人の中にある「当たり前」を見直すことがジェンダー平等のはじめの一歩になる。 <p>ジェンダーギャップ 2018 世界経済フォーラム発表 男女格差が小さい順に①アイスランド②ノルウェー③スウェーデン④フィンランド⑤ニカラグア⑥ルワンダ・・・日本は110位</p>	 <ul style="list-style-type: none"> PowerPoint 資料 資料データ

	<p>②いろいろな違い～あっていい違い・ダメな違い～ * 一人一人違って当たり前違いを認め合っていくには、どうしたらいいのか * 自分の中に、「思い込み」があることに気付く * 違いを認め合うには自分の中の考えも変える必要があることを実感する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の中には、同じ国の中に民族対立があったり、学校に行けず、家族のために働く子どもがいたりすることを知る ・違いには、あってもいい違いと、あってはいけない違いがあることに気付く ・人には「思い込み」があり、そのために事実と違うことでも「正しい」と考えることがあることや、「思い込み」は、人の見ただけで判断すること等から起こることに気付くことができた。そして、それは自分の心の中に問題があることに気付く子どもがいた。また、「思い込み」のために、人が悲しい思いをすることにも気付く。 	
<p>4 本時</p>	<p>【あなたにとって一番大切なものは何ですか？】 What is the most important thing to you ?</p> <p>①それぞれの“自分にとって大切なもの”を発表する。</p> <p>【あなたにとって平和とは何ですか？】 What is peace for you ?</p> <p>① それぞれの“自分にとっての平和”を発表する。</p> <p>② ルワンダの子どもたちの“平和”を知る。</p> <p>【元戦闘員からのメッセージ】</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分にとって最も大切なものを発表する。 [物・人・精神的なもの（心の中のもの）] 自分だけじゃなく、周りの人にとっても大切なもの。毎日、安心して暮らしていくために必要なこととか・・・。 ・ルワンダの子どもたちの大切なものを知る。  <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの“自分にとっての平和”を発表する。 ・ルワンダの子どもたちの“平和”について知る。 ・元戦闘員の話から考える なぜルワンダに戻ってこようと思ったのか 今後の Vision は？ あなたにとって大切なものは何ですか。 日本の子どもたちにメッセージ 「争いからは、何も生まれない。生まれるとしたら、悲しみと憎しみだけ」という元戦闘員の言葉について、自分たちの生活に戻って考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ PowerPoint 資料 ・ ワークシート

【5】本時の展開			
過程時間	学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	これまでの授業を振り返る		
展開 (25分)	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">【あなたにとって一番大切なものは何ですか？】 What is the most important thing to you ?</p> <p>①それぞれの“自分にとって大切なもの”を発表する。 ②ルワンダの子どもたちの“大切なもの”を知る。</p> <p>★ウムチョムイザ学園訪問（小学生13人） お金6人 家族2人 水2人 家2人 地球1人</p> <p>★ルリンド郡庁 小学校訪問（小学生9人） 家族4人 水2人 家2人 お金1人</p> <p>★ルワマガナ Home Visit 訪問（6人） 家畜1人 家族4人 家2人</p> <p>★ムハンガ教員養成校訪問（学生26人） 家族6人 命6人 水4人 健康3人 学校2人 花1人 ドクターヘリ1人 ギター1人 地球1人 お金1人</p> <p>【あなたにとって平和とは何ですか？】 What is peace for you ?</p> <p>① それぞれの“自分にとっての平和”を発表する。 ・争いがない社会 ・みんなが笑顔になれる世界 ・戦争がない世界 ・差別がないこと ・平凡な日々 ・戦争や争いがないこと ・豊かな暮らし ・毎日きちんとごはんが食べられること ・大切な人がそばにいること ・不平等でないこと など</p> <p>② ルワンダの子どもたちの“平和”を知る。</p> <p>【ムトボの元民兵の話聞く】 ・なぜルワンダに戻ってこようと思ったのか。 ・今後の Vision は？ ・あなたにとって大切なものは？ ・日本の子どもたちにメッセージ</p>	<p>日本・・・家族・命・親友・ゲーム機・お金 家・食料・空気・平和な世の中 ペット・健康・スマホ・地球</p> <p>ルワンダの子どもたちが書いた“あなたにとって大切なもの”の絵からどういう意図でそれを選んだのかを考え、理由を知る。 自分たちの“大切なもの”と比べる</p> <p>自分の思いをペア、班で共有し、学級全体に発表する。 もしも世界中の人が、大切なものを見せ合うことができたなら、お互いにより理解し合えるようになり、世の中の争いごとを少しでも減らすことができるかもしれない。そうすれば、少しだけ世界中の人が幸せに近づけることができるかもしれません。</p> <p style="text-align: center;"><u><元民兵の話から考える></u> 「争いからは何も生まれない。生まれるとしたら悲しみと憎しみだけ」という元民兵の言葉について、平和構築・和解について自分たちの生活に戻して考える。 これまでの学習を振り返り、自分事として何が出来るか考え、発表する</p>	    
まとめ (15分)	まとめ [共有タイム]		

【授業実践の様子】

- ・それぞれの学校での授業は、学年全体で行ったため、体育館や多目的ホールなど広いスペースで、スクリーンを使って行った。各学級の教室で行うことができれば良かったのだが、子どもたちから出た意見を黒板に書き留めておくことができなかつたのが、残念であった。
- ・ワークシートを使用したので、フロアに座っての記入は困難であった。
- ・何日かに分けて系統立てて、授業実践を行いたかつたが、自校ではないため、単発での出前授業形式となり、4時間の内容を2時間で伝えることで、広く浅い内容となってしまった。
- ・ルワンダ方式での挙手を行った。たくさんの意見を得ることができたことは大きな成果であった。

【6】 本時の振り返り

- ・4時間構成で考えていたが、自校での授業実践ではないため、内容を詰めてほとんどの学校では2時間で各校に出前授業という形で行かせていただいた。中学校1校。小学校3校。職員研修1校
- ・学校の実態、児童生徒の実態に合わせて、内容を変えながら、視覚的要素を多用し、少しでも多くの児童生徒に理解を深めるために、全てパワーポイントを使用して授業をすすめた。
- ・学年全体として授業を行ったため、一人一人の考えや意見を聞いたりすることが困難であった。出た意見に対して、議論し話し合う活動ができなかつたところが多く、様々な意見をもっと吸い上げることができたらよかった。
- ・今回、ルワンダの4つの学校で聞き取りをした“あなたにとって大切なものは何ですか？”について考えた。もしも世界中の人全てが、自分にとって大切なものを伝えることができるなら、お互いにより理解し合えるようになり、世の中の争いごとを減らすことができるかもしれない。そうすれば、少しだけ世界中の人が幸せに近づくことができるかもしれないということに気付いた。

【7】 単元を通した児童生徒の反応/変化

【ふりかえりシートより】

『アフリカ“ルワンダ”という国に関して』

- ◆ルワンダは私が想像していたのと全然ちがう国でした。アフリカというだけで、貧しいと思ってしまっていたことが恥ずかしくなりました。ICT立国を目指していたり、ジェンダーに関して格差が少なかつたり、日本も見習わないといけないところが、たくさんある国だとわかりました。
- ◆僕は、アフリカのイメージがいい意味で崩れました。それはアフリカと言えば、全部が大自然で野生動物だらけだと思っていたからです。しかし、アフリカもどんどん発展していて、高いビルもあると知って驚きでした。それにルワンダは赤道に近い国であるし、アフリカはどこも暑いと思っていたのに、とっても涼しく過ごしやすい国だと知りました。
- ◆ルワンダは貧しいイメージだったけど、自然も豊かで、心も豊かな国だとわかりました。しかし、ルワンダは、大虐殺があつた国だと知ってびっくりしました。でもその後に国のイメージ戦略が成功し、今は平和な暮らしを人々は送っていることに私は嬉しく思いました。
- ◆今回、いろいろと話を聞かせてもらって、世界が広がりました。ルワンダのこと。アフリカのこと。私は、みんなも思っていたような大草原で、ヤリをもつた黒人の人がいて、野生動物がたくさんいるところとしか思っていなかつたからです。
- ◆日本は、ジェンダーに関してすごく進んでいる国だと思っていたけど、まだまだ男女格差があると知って少しショックだった。
- ◆いかに日本に住んでる私たちは、ぜいたくなんだなあと思いました。日本は、世界中からたくさんものを輸入しています。それなのに、全てが食べられずに捨てられるものがあると知って、世界では食べられない人がいるというのに、恥ずかしい気持ちになりました。

『あなたにとって“一番大切なもの”は何ですか?』に関して

- ◆一番大切なものの中に、『学校』と書いている人がいたのはびっくりでした。僕は、学校は必要だとは思いますが、一番大切なものと言われれば、そうではないからです。でも理由を聞いて、なるほどなあと思いました。今回、あらためて自分にとって大切なものは何だろうと考えたとき、“家族”かなと思いました。たとえモノがすべて無くなっても、家族さえいれば励まし合って、またなんとかやっけていけるからです。だから、僕は、家族を大事にしたいです。物質的に豊かであっても、心も豊かであるとは限らない。それは自分にとって大切なものが何であるかで、よくわかりました。
- ◆ルワンダの人は一番大切なものが『学校』と書いている人がいました。私には思いもつきませんでした。しかし理由を聞いて、なるほどなと思いました。教育って、本当に大事なんだなあと思いました。
- ◆私はルワンダの子が、「あなたにとって大切なものは何ですか」の質問に、感動したのがありました。それは、『家族との思い出』と答えた子でした。思い出は、形には残らないけど、記憶に残ります。それは貧しくてもしっかりと自分の記憶の中に刻むことができる。わたしは感動しました。
- ◆ルワンダの子で、一番大切なものが『花』と言っていた子が、なぜ花なのか理由を知って感動しました。私にとってもそんな素敵な大切なものを見つけたいです。
- ◆ルワンダの子どもたちが考える“最も大切なこと”は、随分自分たちと違うんだなあと思いました。大切なものに“学校”“教育”という発想はありませんでした。それは今、私は豊かな生活をしているからなのかもしれません。私は、学校に毎日行けることに感謝したいと思います。
- ◆いつも勉強は、面倒くさいと思っているけど、今日の話の中で、ルワンダの子どもたちは、大切なものが『学校』『勉強』と言っている子たちがいて驚きました。僕は、今まで勉強なんて大切と思ったことがなかったからです。それにルワンダは、フランス語から英語に公用語が変わるなんて、僕はきっとパニックになるでしょう。ルワンダの子たちは、すごいと思いました。

『あなたにとって“平和”とは何ですか?』に関して

- ◆ルワンダは、25年前にジェノサイドでたくさんの人が殺されたと聞いてとてもショックでした。ジェノサイドで学校が襲撃されたとき、一人の男の子が「僕はフツでもツチでもない。ぼくはルワンダ人だ」と言った勇氣ある少年の言葉は、私の胸に突き刺さりました。「みんな同じルワンダ人」その通りだと思いましたが、でも、私の最も大切な家族を殺されたら、私だったらどんな気持ちなんだろうと……。きっと許さないとします。しかし、なぜルワンダの人たちは、家族が殺されたのに、それを許せるのか、許そうと思ったのか不思議でした。とてもわかりやすくてためになりました。
- ◆私は、今回、多くのことを学びました。協力することの大切さを学習する“風船ゲーム”。自分勝手なことをしては、目的を達成できないと知りました。私たちの“ふつう”が、普通ではないことがたくさんありました。学んだことを一人でも多くの人に伝えたい気持ちになりました。
- ◆人と人が殺し合うことが、なんて残虐なことなんだと思いましたが、とても悲しくなりました。先日、修学旅行で広島を訪れたとき、戦争の悲惨さを学習しましたが、今日学んだ“争いからは何も生まれない。生まれるのは悲しみ、憎しみだけ……”という言葉が、ほんとそうだなあと思いました。私もちょっとしたことで怒らずに、相手の思いをしっかりと受けとめてあげようと思いました。
- ◆『争いからは何も生まれない』世界から戦争や様々な争いがなくなって欲しいと心の底から思いました。何も罪もない人々が殺されることに怒りを感じました。ジェノサイドは、とても恐ろしいと思いましたが。顔見知りの人に殺されるなんて、考えられないです。その憎しみは一生消えないと思うのに、どうしてまた普通に一緒に暮らしていけるのが、とっても不思議でした。“ゆるし”って、本当にあるんですね。些細なことでもめてケンカしてしまう私たち。考えさせられました。

- ◆元民兵の人たちが、私たちにくれたメッセージを大切にしていこうと思います。同じ地球に住む人間同士。争いのない楽しく素敵の世界になってくれればいいなあと思いました。
- ◆世界でそんなことが起こっていたとは初めて知りました。僕は、この生活に感謝すると同時に、一人ひとりが自分らしく生きることができる世界になったらなあと思いました。今、住んでいる自分たちの生活が豊かであればそれでいいという考えがなくなりました。今の僕たちに大切なこと、すべきことは『無関心にならないこと』そして『自分事として考えること』が強く印象に残りました。
- ◆私は、たまに学校に行きたくないと思うことがあります。それは、宿題をしていなかったときです。でも世界には、勉強したくてもできない。学校に行きたくても行けない子たちがたくさんいることを知り、貧困のスパイラルの話が、私はすごく納得しました。きちんと教育を受けることができていることに感謝したいと思います。私は、家に帰って真っ先に今日学んだことをお母さんに話しました。

【単元を通し変容した生徒の態度や学習意欲】

- ・「争いからは何も生まれない」という元民兵の言葉は、児童らの心に響いたようだ。子どもたちの意見の中に、「友だちと意見が食い違った時、いかに話し合いが大切か、また協力することもお互いの思いをどれだけ尊重できるか考えるきっかけとなった。」とあり、違いを認め合うには、自分の中の考えを変える必要があると感じる子どももいた。
- ・ルワンダにおいて、本当の“ゆるし”というものは存在するのだろうか。家族が隣人に殺され、『ゆるす』ということは可能なのか自分自身納得できないところがあり、児童らにも問うてみた。大多数からは「絶対許すことができない」「なぜまたジェノサイドが起こる前のように普通に生活できるのか理解できない」「家族が殺されたら、一生恨むと思う」という意見が多かったが、中には「憎んでももう仕方ない。前を向いて生きていくしかない。だから、ゆるすしかないのかもしれない。」「ルワンダを選んだ道は正しかったのだと思う」と答えた子もいた。ネガティブな意識を国の発展に向けるというまさにルワンダが目指してきたこれまでの道のりのようであると感じた。

【途上国・異文化への意識の変容について】

(授業前)

- ・アフリカのイメージは「野生動物」と「広大な大地」など雄大な自然に関するものと、「貧しい」「暑い」「怖い」「栄養失調」といったネガティブなものがほとんどであり、児童はアフリカの人や文化に触れる機会はこれまでになく、テレビなどで見聞きしているものが大きく影響していると考えられる。
- ・どうしても「自分事」として考えることができず、「他人事」としてとらえる傾向があり、「かわいそう」「日本に生まれてよかった」という感想がはじめに見られた。また自分のたちとの違いや珍しいものに目が行きがちである。「相違点」だけでなく、「共通点」を発見することで、これからの国際社会に目を向けられる資質や能力を養うことにつながるのではないかと考えた。

(授業後)

- ・ほとんどの児童は、アフリカに対する固定概念が覆ったようだ。アフリカ“ルワンダ”にも高層ビルが建ち並ぶ街があることを知り、都会と田舎のギャップに大きく差があることを知った。
- ・「世界中で起きている様々な課題は実は他人事ではなかったのだ。」「なんとかしたい。日本はそのためになにかしているのか。」という思いをもつことができ、今後の自分たちの活動として、主体的に『自分事』としてとらえて考えられるようになった。
- ・自分だけでなく、周りの人にとっても大切なものと考え、今を生きるということは、毎日安心して暮らしていくために必要であり、自分のことだけ考えてはいけないということを学んだようだ。

【8】自己評価

1. 苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> ・単発的な出前授業という形式であったため系統立てた取組ができなかった。今回、私が見たルワンダは、ほんの一部であり、この研修で見聞きしたことを素材として、「これがルワンダだ」と紹介するわけにはいかない。しかし、撮ってきた写真を使いフォトランゲージで写真から読み取れることから考え議論する機会を持った。また導入ではクイズ形式で興味・関心を持たせた上で授業展開を行った。元民兵から貴重な話をたくさん聞くことができたが、子どもたちに話すには重い内容も多く、政治的な部分や人種の繊細な部分に踏み込んだ話をできなかったことが悔やまれる。 ・人権教育、平和学習の一環として国民がどのようにして悲劇から乗り越えようとしているのか、乗り越えられたのか。悲しい歴史から立ち上がろうとしている人々の思いや国の姿勢、またマリールイズさんの言葉にあった「命さえあれば何でもできる。財産すべて失っても学んだことは自分自身の大きな財産。それはいつか役立つ。だから教育が必要。教室には夢がある。教育は、平和と発展への扉の鍵」というメッセージも子どもたちに伝えたが、“平和”“教育”とテーマが大きく、時間をかけてもっと深いところまで追求できればよかった。
2. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・実施する授業時間数を分割して増やすことができれば、もっと“なぜ”を問うことが可能であったと思う。それぞれの学校事情もあるので、年度途中ではなかなか授業時数を調整してプログラムを入れてもらいにくいので、年度当初に学校側と相談させてもらい、国際理解教育の中でプログラムを系統立てて入れてもらえると、より理解を深める活動が行えるかと思う。内容を精選しながら構成したが、講義形式で盛りだくさんになってしまった感は否めない。今後の単元構成作成時には、より精選し子どもたちの記憶に残るルワンダの今を伝えたいと思う。
3. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を行う対象児童生徒の人数が多かったため、パワーポイントを用いた。視覚的に有効な写真を多く活用することで、理解を深めるためには効果的であった。一つの学校だけでなく、他校の学校にも広げることができたのが大きな成果だと言える。どの学校でも子どもたちは、熱心に耳を傾けてくれ、国際的な諸問題は「他人事」ではなく、「自分事」と考える必要性を理解しようとする姿勢がみられ、自分の生活との関わりや、自分の生活を見直すきっかけになったことと思う。 ・5つの出前授業を行うことで、それぞれの学校、学年の子どもたちの考えや思いを吸い上げることができ、学校、学年によっても認識が様々であった。ふり返りシートをまとめたものを他校でも共有してもらい、いろいろな考えを知る、考える要素の一つとして広げることができた。
4. 備考	<p>ルワンダの子どもたちと触れあう中で感じたことは、貧しいと思っていたルワンダには、豊かになりすぎた日本が無くしてしまった心の豊かさがあった。ルワンダは、25年前の虐殺という負の遺産を乗り越え、多様な社会の実現を国を挙げて目指しているが、ジェノサイドメモリアルで見た光景は忘れられない。傷ついた壁、銃で穴の空いた天井、遺品としての数々の衣服に言葉を失う。当時の悲惨な虐殺の光景が脳裏に浮かんだ。過去のものにとらえず、けっして風化してはならない後世に伝えていく大切な負の遺産である。国策が立てられ急速に国づくりが行われたことが伺えた。今は“ゆるし”という名のもと、平和な暮らしが保たれている。その和解のプロセスに教育の役割があるということ。明日を生き抜く力をもっているにも機会に恵まれないルワンダの子どもたち。やろうと思えばたくさんのお金を手に入れられるが夢をもてない日本の子どもたち。どちらもこれからの世界を背負っていく子どもたち。日本の子どもたちに心の豊かさについても伝えていきたいと感じた。</p>

参考資料：・写真絵本「あなたの大切なものは何ですか？（ツバル共和国）（カンボジア）」山本 敏晴

・「ルワンダの祈り」 後藤 健二

・「ぼくのこえがきこえますか」 田島征三

・「せんそうしない」 たにかわ しゅんたろう

・「へいわってすてきだね」 安里 有生